

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

大阪府

○学校名

大阪府立伯太高等学校

○学校のURL

<http://www.osaka-c.ed.jp/hakata/>

2. 学校紹介

○学級数

各学年 7 学級 【合計】 21 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 779 人（平成 24 年 5 月 1 日現在）
（内訳：1 年生 296 人、2 年生 241 人、3 年生 242 人）

○学校教育目標

A. 知力・体力・人間力！《自ら学ぶチカラ》の育成

普通科総合選択制の長所を活かして、生徒の興味・関心を引き出し、学ぶ楽しみと意欲をはぐくんで、生涯にわたって土台となるべき「学力・体力・人間力」と、そのための《自ら学ぶチカラ》を育成する。

B. 進路（自己）実現をめざす！《自己コントロールのチカラ》の育成

一人ひとりの生徒に応じたきめ細かな教育活動を実践する中で、生徒が自ら着実に人生設計し、進路実現（自己実現）していくための《自己コントロールのチカラ》を育成する。

C. 人権感覚と豊かな人間性！《人間関係づくりのチカラ》の育成

生徒のセルフエスティーム（自尊感情）をはぐくみつつ、社会の一員としての公共心とともに、豊かな人間関係・社会関係を自ら形成していくための《人間関係づくりのチカラ》を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

本校では、「自尊感情を大切に、自他ともに尊重できる豊かな人権感覚を育み、新たな人権文化の構築に寄与できる人材の育成をめざす」ことを基本方針として、人権教育推進委員会を核に、学校の教育活動全体を通じて人権教育を実施している。

その中で、特に人権教育の柱として位置づけている「GS（グローバル・スタディーズ、人権学習プログラム）」と、自己実現のための力を育む「キャリア教育（進路保障）」の取組、そしてこの両者を統合した入学から卒業まで 3 年間の「コラボ・プログラム」をベースに、人権教育の取組を進めてきた。

このような中、平成 23 年度から、新しい教育ツール「伯太高校レーダーチャート HAKATA Educational Radar Chart（以下、HERC＝ハーク）」を独自に開発して、取組の深化を図っている。

この HERC（ハーク）は、いわゆる「テスト成績」だけではなく、学校教育目標に

準拠して「学習態度」「目標への達成度」「生活習慣」「人間関係づくり」を含めた5つの指標を設定して数値化し、生徒一人ひとりの教育課題と頑張りを「見える化」することで、より総合的な教育評価を行いつつ、一人ひとりの生徒に寄り添いながら、その課題を丁寧に把握し、支援するとともに、教育活動の効果を向上させようとするツールである。

これまでの充実した取組に加え、この新たなツールも用いることで、一人ひとりの生徒を大切にし、そのことを通じて他者を尊重しようとする感覚や気持ちを育む本校の人権教育活動の一層の深化をめざしている。

3. 特色ある実践事例の内容

I. 教育活動のより総合的な効果検証に向けて

～「伯太高校レーダーチャート：HERC（ハーク）」のねらいと本校での構成～

(1). ねらい

教育活動の効果の検証は、数値で見えやすいテストの点数だけを用いるのではなく、学校教育の目的・目標に照らしてなされるべきである。そのため、本校が生徒に育みたい力として掲げている「自ら学ぶチカラ」、「自己コントロールのチカラ」、「人間関係づくりのチカラ」について、どのように生徒の中に培われているのか、学習成績とともにこれらの力を指標として生徒の学習活動全体を「見える化」できないか、そうすることで、我々自身の教育活動についても多面的に検証ができるのではないかと、との問題意識から、「新しい教育ツール」（HERC）を校内開発するに至った。

(2). 構成

HERC（ハーク）の本校での構成は以下のとおりである。生徒の学習活動の指標として重要であると考え5つの項目（i-v）を設定して、3つの学校教育目標A. B. C. に即して整理し、互いの関連付けを図っている。

《A. 自ら学ぶチカラの育成》

- i. 「学習成績」…教科・科目に即しての知識・技能等。
- ii. 「学習に取り組む態度」…学ぶことのモチベーション形成がどれだけできて、実際にどれだけ頑張れているかということ。
- iii. 「目標への達成度」…自分の目標を立て、その達成に向けて努力し成果をあげていること。

《B. 自己コントロールのチカラの育成》

- iv. 「生活習慣」…生活を自らコントロールしつつ、社会規範を自らのものとする生活習慣等の確立。上記 i ii iii の《A. 自ら学ぶチカラの育成》の土台となるもの。

《C. 人間関係づくりのチカラの育成》

- v. 「人間関係づくり」…教職員との人間的な信頼関係だけではなく、友人関係や家族関係、広く社会との関係、そして自分自身との関係（自尊感情）の豊かで安定した在り方。《A. 自ら学ぶチカラの育成》や《B. 自己コントロールのチカラの育成》の社会的背景ともなる。

このように、学校教育目標との関連付けを図りながら、本校では5つの観点を指標として、「伯太高校レーダーチャート：HERC：ハーク」を構成している。実際のレーダーチャートの指標①②③④⑤との対応は、次の通りである。

（各指標項目とも25ポイントで表示している。）

- ① 「目標への達成度」（← iii）質問の回答での配点
- ② 「学習成績」（← i）期末考査の全科目の平均点をデータ取得
- ③ 「学習に取り組む態度」（← ii）質問の回答での配点

- ④ 「人間関係づくり」(←v) 質問の回答での配点
 ⑤ 「生活習慣」(←iv) 質問の回答での配点と出席率をデータ取得し加算

II. 「伯太高校レーダーチャート」 (データはダミーデータ)

A 指標質問回答画面：

質問と生徒が入力した回答を表示する。指標質問は作り変えることが可能。

H002		** 質問に答えよう **		2012/01/05		終了	
現在の実施は		1年	34 期 1年 2学期	2年	33 期 2年 2学期	3年	32 期 3年 2学期
1		32期3年 組 番		現在は32 期 3年 2学期です。			
(HERC)32期3年2学期を終えて							
入力確認の表示							
目標への達成度 20 あなたの高校生活は 113 学校では楽しいが勉強に身がはいらない 行事への取り組み 123 準備はともかく、当日は頑張った。 卒業に向けてのあなたの状態はどれが近いですか？ 134 余裕をもって卒業できるように努力している。 自分の進路希望がかなうように努力していますか？ 145 継続的に努力し、進学先・就職先も希望通り決まった。 自分の将来について 155 目標に向けて相談しながら努力している。 学習成績(結果) 平均点：55.6点 学習に取り組む態度 17 今回の成績についてどう思いますか？ 314 もう少しできると思うので、次回がんばろうと思う。 あなたの授業態度は次のどれに近かったですか？ 324 先生の話聞き、自分なりに授業を受けた。 今回の考査に向けてどれくらい勉強しましたか？ 333 考査期間中 1日に30分～1時間程度勉強した。 勉強でわからないことはどうしましたか？ 343 わからないところはありますが、質問しなかった。 進路希望を授業以外の勉強をしましたか？ 353 勉強はしたが、十分とは言えない。 豊かな人間関係づくり 18 友だちとの関係について 413 わかってもらうのは難しい 先生との関係について 424 質問したり話しかけたりできる先生がいる。 保護者はあなたの将来をどう思っているか 432 自分のことは自分で決めなさいと思っている。 ほめられたときに受けとめることができますか？ 443 時々できる。 周囲の人はあなたのことをどう思っているか？ 453 周囲の人は自分のことを気にかけていないと思う。 生活習慣の確立 出席率：95% 20.5 朝食を食べていますか？ 523 ほぼ毎日食べている 夜十分に睡眠をとれていますか？ 532 どちらかというと寝不足のことが多い あなたの休日の過ごし方で近いのはどれですか？ 543 友達と遊びに出かけることが多い 放課後はどうしていますか？ 552 友だちとしばらく学校にいる。 学校にがんばって行こうとしていますか？ 564 少しずつでも登校している。							

回答確認表示

再表示

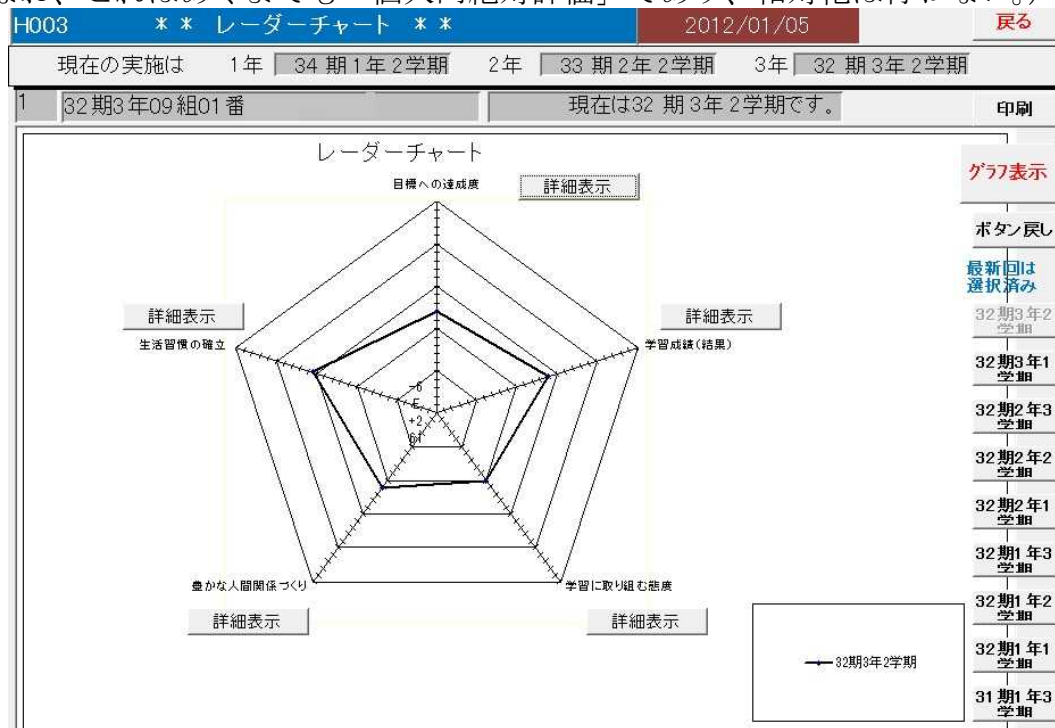
入力に戻る

レーダー
チャート

過去からの
移りかわり

B レーダーチャート画面：

指標ごとに各 25 ポイントで表示。過去 3 履歴分を重ねることが可能。
 (なお、これはあくまでも「個人内絶対評価」であり、相対化は行わない。)



C ふり返り手書き部分：

印刷配布される個票に生徒はふり返りを記入し、三者懇談等で活用。

(感想記入欄)

目標への達成度

学習成績(結果)

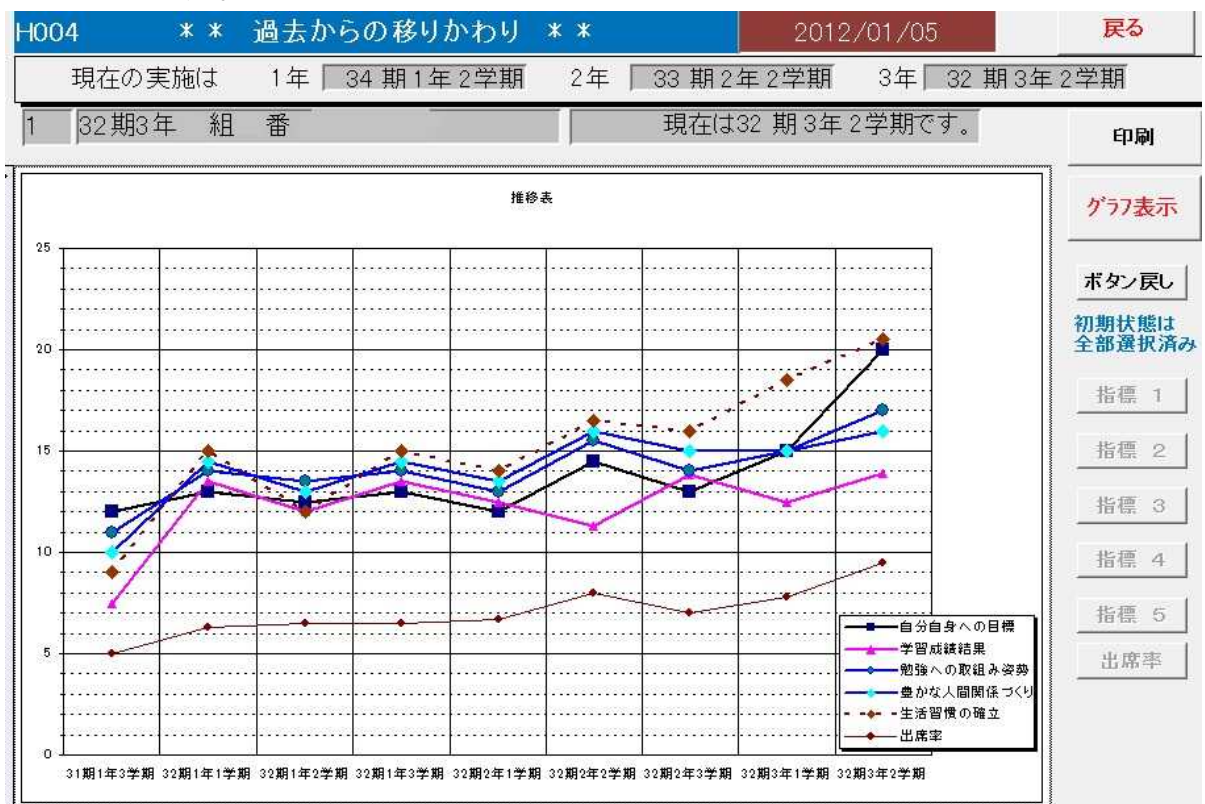
学習に取り組む態度

豊かな人間関係づくり

生活習慣の確立

D 過去からの移り変わり画面：

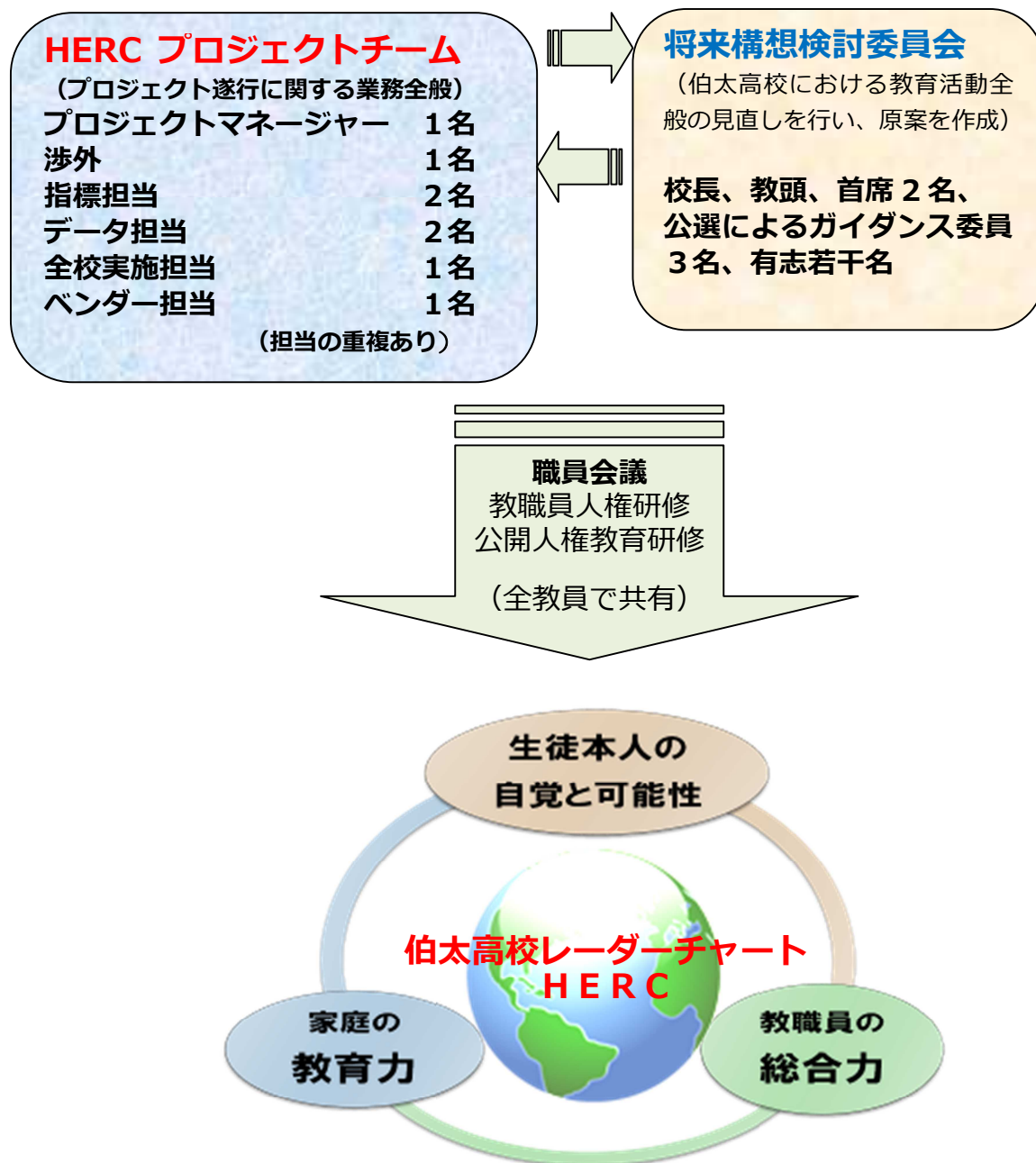
生徒一人ひとりの教育課題について、指標別の経時的なデータ分析が可能。過去9履歴分。



期待される効果

- 生徒 自らの日常の在り方を振り返り、学校生活と「学力」の課題を自覚できる。
- 保護者 子どもの頑張りや課題が見えるので、より効果的に支援できる。
- 教師 生徒一人ひとりの教育課題をより総合的に把握して、組織的に共有し指導できる。その指導の効果検証とともに、生徒の3年間の成長の効果検証も可能となる。

Ⅲ. 「伯太高校リーダーチャート」取組の実施体制



Ⅳ. 「伯太高校リーダーチャート」関係の取組 (平成 24 年 11 月現在の概要)

平成23年度

- 6月初旬 (1学期中間考査後)・・・HERCプロジェクトチーム発足、
HERC「試行版」の実施 (1年4クラス) ⇒試行したクラス担任の意見交換会。
- 7月～ 8月・・・HERC「普及版」の仕様書の作成、ベンダーへ発注。
- 9月～11月・・・「質問指標」作成、全校実施体制の検討。
- 11月30日・・・「教職員人権研修」
(ベンダーによる「HERC」デモンストレーションを含む)
～大阪府教育委員会、和泉市立中学校からもオブザーバー参加。
- 12月 8日・・・「人権教育にかかる公開研修会」
(人権教育の流れを概観しつつHERC説明)
～高知県こころの教育センター、大阪府教育委員会、大阪教育大学、私立大学、
大阪府立学校人権教育研究会、和泉市立中学校、等からも多数の参加。
- 12月 9日・・・HERC「全学年版」の第1回入力実施。

平成24年度

- 4月より全学年で年3回のHERC入力を実施して活用している。
- 前年度からの実施をふくめると、平成24年11月現在までで、計3回分のデータが蓄積されているので個人内におけるHERCの変化が把握しやすくなった。
- 特定の指標（例えば「目標への達成度」）がどのように変化したかを生徒本人との話題とすることもできる。
- HERCは「生徒からのサインである」として、生徒理解に役立てるよう活用を推進中。
- HERCのバージョンアップとして、「気になる生徒」のデータ検出の機能付加を検討中。

4. 実践事例の実績、実施による効果

生徒・教職員・保護者の反応

ア) HERC 実施による効果《生徒と学級担任》

- ① 各学期の期末考査成績と出欠状況にくわえて、他の指標での生徒の自己評価を入力させて、「伯太高校レーダーチャート」を作成した。
- ② 生徒には質問項目への回答とともに、「自分自身の目標」「勉強への取組姿勢」「中間考査の成績」「豊かな人間関係づくり」「生活習慣の確立」についてのコメントも記述させて、チャートとの整合性も一定確認できるようにした。
- ③ 生徒は、質問項目に答えることでチャートができることに驚きの声をあげるとともに、記述式の箇所にも前向きに取り組んだ。
- ④ 当該の学級担任に意見を求めたところ、個々の生徒の現状と教育課題が相当な妥当性をもって1枚のチャートで「見える化」できていることの驚きが大きかった。
- ⑤ HERCは「生徒からのサインである」として、担任での活用を進めている。

イ) HERC「試行版」実施（平成23年度1学期中間考査後）による効果 《保護者》

- ① 6月の保護者懇談週間で、学級担任が「伯太高校レーダーチャート」（試行版）を実際に用いて懇談を実施した。
- ② 上記ア)－②の記述式の部分のコメントとあわせて好評で、保護者が学校の取組に信頼を寄せてくれるのが担任として実感できた。

ウ) 平成23年12月8日「公開研修会」の参加者の反応

- ① HERCの取組は、個々の生徒に応じた全く新しい学力観である。様々な課題を抱えた中学校においてこそ、HERCの実践を是非取り入れていきたい。今後、小学校・中学校・高校が連携して、生徒を取り巻く環境を見据えた上で、個別の支援体制を確立する際に非常に画期的な取組である。
- ② HERCについては、どの学校でも使えるようなツールになっていると感じたが、最終は運用する「人」しだいであると思う。質問項目をそのまま便利に使うだけでは、不十分であると感じる。便利さがわかった上で、それぞれの学校の創意工夫が必要であると感じる。そのためには、学校体制として、取り組めるような組織づくりも重要であると感じる。
- ③ HERCの活用を広めるには、これを使った具体的な事例を多く示してもらおうとよいのではないかなと思う。HERCは言わば道具なので、この道具を使って「何が」「どんなことが」できるのか示していただけるとよいと思う。

5. 実践事例についての評価

- 開発からおよそ1年、活用をはじめて3回分の入力を済ませ、全生徒のデータを蓄積してきている。この段階での評価は時期尚早ではあるが、本校のHERCについては、生徒の状況を生徒、保護者、教員の三者が共有できる資料に十分になり得るものと考えている。
- 特に、一人ひとりの生徒の顔を思い浮かべながらその生徒のレーダーチャートを見ると、改めて気づかされることがある。例えば、生徒Aについては、詳細は省くが前年度と今年度のレーダーチャートの変化から、学校生活において自信とがんばる気持ちを低下させていると考えられた。これに気づいた教員がこのことを「生徒からのサイン」と受け止め、これまで以上に積極的な働きかけ（様々な声かけを中心に）を行ったところ、この生徒は現段階では学校の中で比較的落ち着きを取り戻しつつあるように見える（働きかけ後のレーダーチャートの入力はまだなので、その点での効果検証はできていない）。
- HERCを用いた教育活動の実践と評価については、まだ途上ではあるが、教員にとっては生徒の変化に気づく一つのツールとして十分に活用できるものであり、生徒自身の学校生活の振り返りや、保護者が子どもの状況を把握するツールとしても有効であり、このツールを間に挟んで、教員と生徒、あるいは保護者を加えた三者で話をしていく際に、多くの情報を与えてくれるものと考えている。
- 今後、さらに実践を積み重ね、より有効な活用方策を模索するとともに、本校の教育活動そのものの検証につなげていくことができるよう、研究を進めたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

大阪府立伯太高等学校

この事例には特色が二点ある。一点目は、21クラスの規模でありながら生徒一人ひとりの教育課題や頑張りを「見える化」させたいと考え、独自の「レーダーチャート」を校内開発したことである。この「レーダーチャート」は、生徒の姿を教職員が総合的・経時的に把握し、総合的な指導を可能にすることをねらいとしている。他方でまた、生徒にとっては自らの課題を自覚できるようにするとともに、保護者にとっても自分の子どもの頑張りが課題を知り、支援しやすくするものとなっていて、学校との信頼関係の深化にも資する面を持っている。

二点目は、この「レーダーチャート」の指標に、学校として生徒につけたい力が端的に示されていることである。具体的には、「自ら学ぶ」「自己コントロール」「人間関係づくり」の三つの「チカラ」を教育目標とし、それらを受けた指標として「学習成績」「学習に取り組む態度」「目標への達成度」「生活習慣」「人間関係づくり」の5つが示されている。これらも、教職員のみならず、生徒や保護者にとってもわかりやすいものとなっている。

これまでの取組を深化・発展させ、よりきめ細かい指導が組織的に進められている事例である。